

鍵盤ハーモニカは 音楽表現に優れた 安全な楽器です

新型コロナウイルスの感染拡大リスクを低減する
「新しい生活様式」に対応した学校生活の中で、
鍵盤ハーモニカの演奏が感染拡大につながるのでは、
とご心配される先生方もいらっしゃるかもしれません。
弊社では、鍵盤ハーモニカの安全性を確認するため、
演奏時の口元および本体からの飛沫可視化実験を行いました。

本紙 概要

鍵盤ハーモニカ演奏時の飛沫可視化実験の結果
新しい生活様式に役立つ 演奏上のご注意・お手入れ方法
鍵盤ハーモニカが音楽教育に適している8つの理由

鍵盤ハーモニカ演奏時の飛沫可視化実験の結果

検証方法

クリーンルームにて数ミクロン(1000分の1ミリメートル)の微粒子を可視化するシステムを使用し、鍵盤ハーモニカ演奏時の口元および本体からの飛沫の量や飛ぶ速などを観測しました。

使用楽器

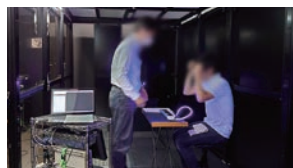
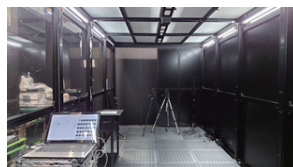
メロディオン M-32C



検証結果

「飛沫はほぼ拡散されない」ことが確認されました。
可視化実験の動画はこちらからご覧いただけます。

<https://www.suzuki-music.co.jp/information/35211/>



新型コロナウイルス感染拡大リスクを低減する
「新しい生活様式」に役立つ

メロディオン演奏上のご注意

メロディオン付属の取扱説明書の他、下記内容につきましてご指導をお願いいたします。

演奏の環境

三密（密閉・密集・密接）を避け、ソーシャルディスタンスを保ち、
換気にご配慮ください。

演奏の前後には

手洗い・うがいを必ず行ってください。
また、アルコール等で手指の消毒を行った際には、
しっかりと乾かしてからメロディオンに触れてください。



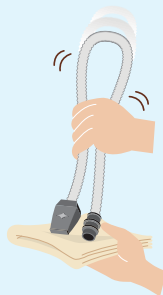
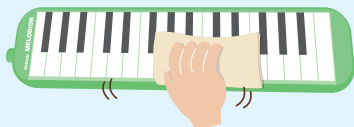
演奏時の注意

鍵盤ハーモニカはゆっくりとした優しい息づかいで演奏してください。
限度を超えた強い息を吹き込むとメロディオンはきれいな音で鳴りません。
また、唄口（マウスピース）と唇の間から、飛沫が出る可能性があります。
適切な息・優しい息で演奏することできれいな音となります。



演奏後には

お手入れには清潔なハンカチをご使用ください。
また、唄口やメロディオン内部の水分を拭く時は、
水分の出口をハンカチ等で覆うなどのご指導を
お願いいたします。



新型コロナウイルス感染拡大リスクを低減する
「新しい生活様式」に役立つ

メロディオンのお手入れ

通常のお手入れ

通常のお手入れ方法はメロディオンに付属の取扱説明書
または動画「メロディオンのお手入れ お片付け編」をご覧ください。



特に汚れが気になる時のお手入れについて

以下の指示、または動画「メロディオンのお手入れ クリーニング編」
をご覧ください。



メロディオン本体・ケース

通常のお手入れをした後、
市販の**アルコール成分を含まない**
除菌ウェットティッシュ等で拭き、
水分が残らないよう
しっかりと乾かしてください。
アルコールの使用、また水洗いは、
製品を傷めるので絶対にしないでください。



唄口（マウスピース）

唄口は、短いもの（立奏唄口）と、
長いもの（卓奏唄口）どちらも
食器用洗剤で洗うことが可能です。
洗ったあとは、洗剤が残らないよう
しっかりと水ですすぎ、直射日光の当たらない
風通しの良い場所で、中までしっかりと
乾かしてください。
お湯は製品が変形する恐れがあるので
絶対に使用しないでください。



鍵盤ハーモニカが 音楽教育に適している 8つの理由

1 鍵盤楽器であり吹奏楽器であるからこそ学び

鍵盤楽器に必要な運指や、吹奏楽器に必要なブレスコントロールを1台で学習でき、音楽表現へのより深い理解が得られます。またリコーダー学習への移行もスムーズです。

2 アコースティック楽器ならではの表現力

電子楽器は音色や音量が安定していますが、一方で音や演奏が画一的になりやすい面があります。鍵盤ハーモニカは、児童一人一人の個性がそのまま音に表れる楽器です。

3 指導しやすく理解しやすい

鍵盤ハーモニカは、音の高低や、どの音を演奏しているのかが指導者、児童の双方にとって視覚的に分かりやすいため、音階学習に適しています。また、息の強さや出し方で音量や音の長さが変わるという「行動」と「結果」が結び付きやすい楽器です。

文部科学省・小学校学習指導要領解説音楽編 第3章 第1節より引用
演奏の仕方を工夫することによって、楽器の音色が変わることに、演奏を通して気付くようにすることが重要である。例えば、息の使い方を変えて音色の違いを比べるなどの過程において、「鍵盤ハーモニカは、息を速く吹き込んだときとゆっくり吹き込んだときでは、音の感じが違う。ゆっくり吹き込むと優しい感じの音になる」などの気付きを促すことが考えられる。

4 「息」による自由度の高い音楽表現が可能

歌と同様に、音の強弱、長短、抑揚を、息によって自在にコントロールできるため、学習指導要領にある「思いや意図を持った」表現がしやすく、音楽づくりや合奏の授業においても活用しやすい楽器です。

文部科学省・小学校学習指導要領解説音楽編 第2章 第1節より引用
音楽表現を工夫するとは、歌唱や器楽の学習においては、曲の特徴にふさわしい音楽表現を試しながら考えたり、音楽づくりの学習においては、実際に音を出しながら音楽の全体のまとまりなどを考えたりして、どのように表現するかについて思いや意図をもつことである。

5 小型で軽量、多様な演奏形態に対応

メロディオンは幅約43cm、重さ600～800グラムと小型で軽量。また唄口（マウスピース）も卓奏・立奏の2種類を付属しているので、発表会では座って、マーチングでは行進しながら演奏、といった様々な演奏形態に対応します。

6 個人持ち楽器であること

「新しい生活様式」を学校生活の中に取り入れていく中で、今まで鍵盤ハーモニカを備品楽器としていた学校が、個人持ち楽器に切り替える動きも出てきました。また自分の持ち物を大切に扱うことや清潔に保つという情操面や衛生意識の教育にも繋がります。

7 電源が不要で丈夫

電源が不要ですので、いつでもどこでも演奏が可能です。また精密な電子部品を使用している電子楽器と比較し、衝撃やホコリによる影響を受けづらく丈夫です。

8 鍵盤ハーモニカで健やかな心と体を

息を吹き込みながら鍵盤を演奏する、といった2つの行動を同時に行うことで脳が活性化することや、息を深く吸って吐くことでストレスを軽減させる脳内ホルモンの活性化が近年の研究で分かってきました。